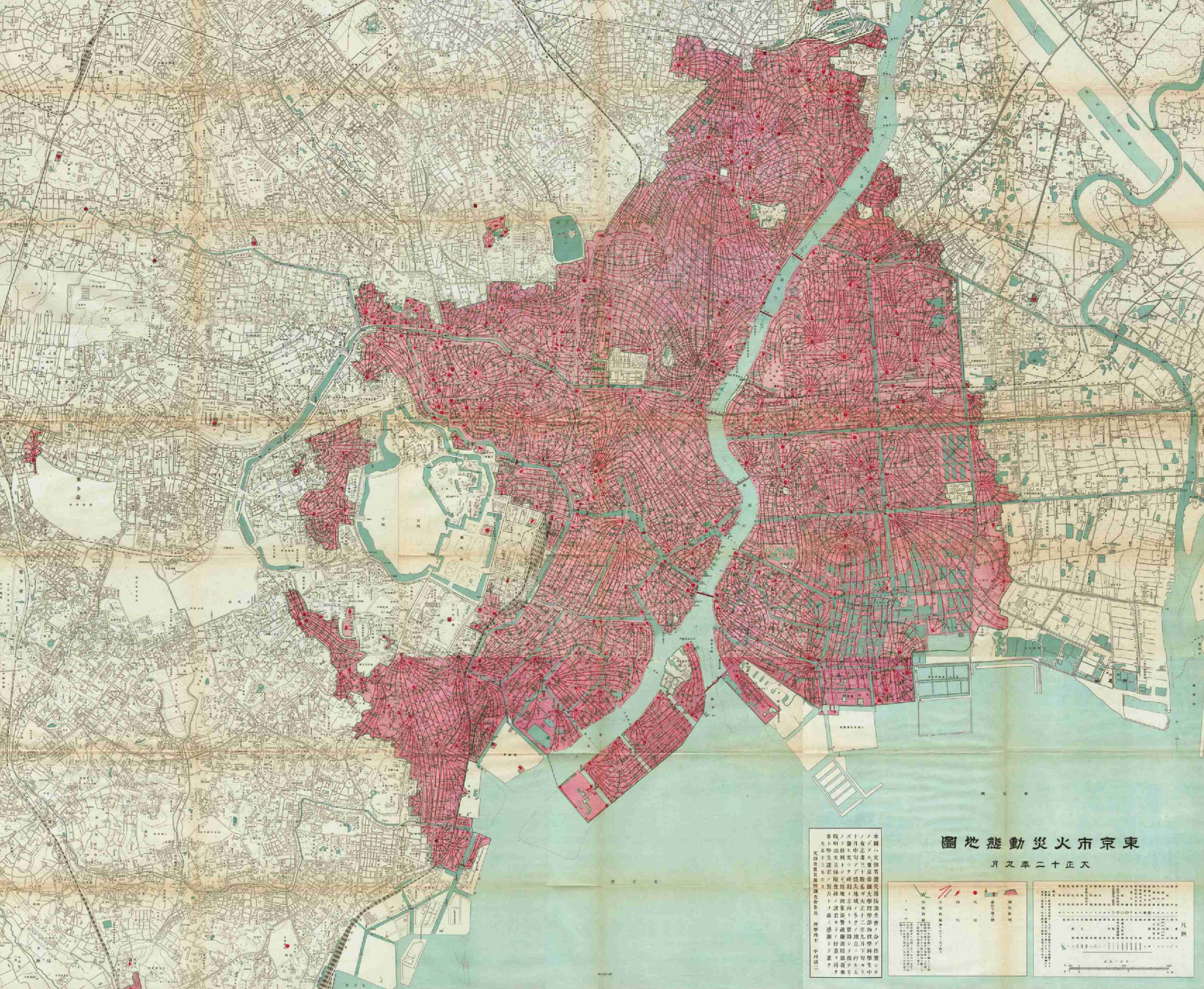


東京市火災動態地図



関東大震災のもたらした甚大な被害実態について、震災予防調査会による詳細な調査が実施され、そのまとめが大正14年(1925)3月、『震災予防調査会報告』第100号として刊行されました。この内、火災篇に添付されたのがここに展示した図です(原図は9分割図)。

東京帝国大学教授中村清二を中心とした調査は、現場に調査員を派遣して、①発火地点の場所・時間・原因、②火流の進んだ経路・スピード、飛び火及び延焼を助長した原因、③鎮火の要因等を丹念に記録するものでした。苦勞の末集められたデータを元に、火災の同時刻線と火流線を究明し記入した図が完成し、大地震後の防火対策を策定する上での科学的根拠を提供していくことになったのです。